

2020年の「大学入試改革」とは？

■なぜ、大学入試の改革が必要なのか？

- ① グローバル化の進展
- ② 産業構造や就業構造の転換
- ③ 生産年齢人口の急減
- ④ 労働生産性の低迷

⇒ 「必要となる力」が変わる



自ら課題を発見し、
周囲と協力して解決する力が
求められるようになる。



求められる力が変化すれば
学校教育も変化する



教育が変化すれば 学力の「測り方」も変化する

知識・技能だけでなく、
思考・判断・表現力を重視した入試へと

■ センター試験が「大学入学共通テスト」へ

- ① 国語と数学で「記述式問題」の導入
- ② 英語は4技能、民間資格・検定試験を活用

① 国語と数学で「記述式問題」

- 知識だけではなく、思考力・判断力・表現力も評価
- 国語の記述式は、80～120字程度を想定
- 多様なテキストを読み取り、解釈し、複数の情報を組み合わせて新しい考えをまとめて記述

②-1 英語は「4技能試験」

【これまで】

「聞く」「読む」の2技能評価



【これから】

「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能評価

②-2 英語は「民間資格・検定試験」を活用

- 高校3年生の4～12月に2回まで受検可能
- 結果とともにCEFRに基づく段階別成績を大学に提供する

■ 個別大学試験における 「多面的・総合的評価」の導入

- 一般選抜でも調査書・志望理由書・小論文・面接などが各大学の必要性に応じて課されるようになる
- 学校推薦型選抜、総合型選抜でも、学力評価が重視されるようになる

■入試形態を問わず 「調査書＝学校活動」が重要に

【調査書への記載事項】

- 学校の成績
- 課外活動
(部活・委員会・ボランティア・資格・検定等)

■志望校選択時に確認が必要 「アドミッションポリシー」

アドミッションポリシーとは、
大学側が設定する「大学の入学者受け入れ方針」
どのような学生像を求めるかを集約したもの

- 入試で問われる内容や入試方針にも反映するもの
- 志望する大学のアドミッションポリシーを踏まえ、
高校時代に様々な経験を積むことも大切に